

江藤農林水産大臣と三重県鳥羽市のカキ養殖業者との Skype 意見交換会
概要

日 時：令和2年4月17日（金）10時20分～11時00分
場 所：農林水産省7階講堂（スカイプによるウェブ会議）
出席者：（三重県漁業関係者）

鳥羽磯部漁業協同組合 組合長 永富 洋一 氏
理事 竹本 昭和 氏
理事 城山 忠一 氏
購買事業課長 倉田 昭 氏
三重県水産振興課 課長 伊藤 徹 氏
主査 渥美 貴史 氏

：（農林水産省）

農林水産大臣 江藤 拓
水産庁長官 山口 英彰
増殖推進部長 黒萩 真悟
栽培養殖課長（司会） 坂本 清一

（大 臣） 鳥羽の方では、カキの斃死や粒が小さいといった問題や、コロナの影響等で、大変な苦境にあるとのことは存じている。皆様の意欲が、くじかれかねないとの声も国会で改めて聞いており、大臣としては、直接現場と意見交換するべきだと思っているが、今は直接お会いして話をするということは難しく、このようなネットでの意見交換となったが、是非率直な意見をいただければと思う。

補正予算の審議では、流通の円滑化のための予算として1,400億円を組ませていただいた。これには、水産品も含まれているので、ご活用いただくことも可能である。

農政は、農林業も水産業も漁業も現場の声を反映させることが第一だと思うので今日は忌憚のない意見を賜りたい。

（永富氏） 鳥羽磯部漁協は、平成14年に合併し、現在、正準合わせて2,200人近い組合員で構成されている。水揚げされる魚介類は、天然ものは200種類くらい、養殖はカキを始め、クロノリ、アオノリ、ワカメ等があり、今回はカキをはじめ、海況が悪いので全部の成績が悪い状況。今年は合併後、初めて大きな赤字を抱えた。コロナの影響で、高級魚の値段が良くて1/4になっており、カキは斃死により初めから、もうどうしようもない状況。

水産研究所の話では、餌になるプランクトン量が、7月の水温の変動と高水温の影響で、的矢湾でプランクトン量が1/8となったことが原因ではないかといわれている。カキの養殖場では毎年のように斃死が発生しており、将来的に持続可能な漁業につなげていくためにも、経営支援や環境海域調査やモニタリング調査など、いろいろな観点から支援をお願いしたい。

今日は、特に被害が大きかった、安楽島^{あらしま}地区と浦村^{うらむら}地区の現場の皆さんから説明をさせていただく。

(竹本氏) 今年のカキ養殖はひどい状況であり、40年養殖を続けているが初めての経験。例年は2割くらいの斃死があるが、今年は、5割から6割くらいの斃死があり、身入りもプランクトンの影響で悪かった。斃死が分かったのは9月ごろだが、死んだカキを見ると7月から8月に死んだようだ。これは黒潮の大蛇行により、伊勢湾に栄養の無い高水温の潮が入ったのが原因と思われる。そしてさらに追い打ちをかけたのが今年の2月から3月にかけてのコロナ騒動である。

この影響で、年間で一番出荷の多い時期に出荷が出来なくなる、また市場の値段もぐっと下がり、市場ではセリが出来なくなるような状態であった。このような状態で、生産者としては販路を探すのも困窮した。

3月には出荷がままならないことから、冷凍に切り替えたが、それもなかなかままならない状態で生産者は悲鳴を上げている。

国をお願いしたいのは、個人事業主である経営基盤を支えるために、施策によって救済してほしい。

(城山氏) 浦村地区では今年は6割から8割の斃死があり、例年通りの出荷が出来ず売り上げが減少し、これからという時に、コロナウイルスによる外出自粛により需要が落ち込み、価格も半減した。

浦村地区にはカキ養殖業者が65件あり、30件ほどがカキ小屋をしている。斃死により焼きガキ用のカキが用意できず、また、2月のカキのおいしいシーズンにコロナウイルスによるお客さんのキャンセルが相次ぎ、例年の土日だと4,000人ほどが来客するところ、コロナウイルスの影響によりお客は1/3以下になっており、売り上げが落ちている。

(竹本氏) 個人事業主として、コロナウイルスによる業績悪化を救済していただけの制度があるか伺いたい。

(長 官) 個人事業主に対する支援としては、中小企業庁による持続化給付金という制度を補正予算で措置しようとしているところ。

これについては、個人事業主の皆様には100万円、会社には200万円の支援をすることになっている。交付要件については現在調整中だが、1か月の売り上げが前年同月比で半減した場合について支援していくと聞いている。また詳細が決まったらお知らせしたいと思う。

もう一つ、雇用調整助成金という制度があり、従業員の雇用を継続した場合、国が最大4/5補助をするという仕組みがある。こちらは厚生労働省、もしくはハローワークが窓口となっている。

(大 臣) 雇用調整助成金は今までより補助率を上げているので、かなりいい制度である。1/5の自己負担が生じるが、このコロナが終わった後には、カキ小屋にもたくさんのお客さんが必ず来るわけであるから、その時に向かって雇用を維持することが必要であるので、農林水産省としての予算も先ほど申し上げたものを確保しているが、中小企業庁の予算もしっかり活用していただきたいと思う。

先ほど冷凍に回したという話があったが、調整保管にあたるので冷凍にかかる経費について、今回補正予算はまだ審議にも入っておらず、確定的なことは申し上げられないが、経費を農林水産省で負担させていただく方向である。

学校給食については、全国が非常事態宣言になっているため情勢が変わるかもしれないが、この1,400億円の予算の中で、魚や冷凍したカキなどを学校給食で子供たちに食べてもらうような場合、市町村が地域の食材を使用する際に、国が助成することができるので、市町村長、学校給食関係の方と話し合っていて、冷凍に回した分を給食で子供たちにおいしく食べていただくことも検討いただきたい。

(永富氏) 早急に支援していただきたいというのが現場のお願いである。もたもたしていると、漁業者は死んでいくしかない。早急におねがいしたい。

(大 臣) 予算の組換え作業が必要であり、公金を使うことであるから、いい加減にお金を動かすことはできない。国民に説明できるだけのペーパーは用意しなければいけない。通常は2週間かかる予算書の組換えを1週間で予算書を挙げて、できるだけ早く予算審議し野党の方々にもご理解いただいて、一日も早く予算が執行され、現場に届くということが一番大事であると思っているので尽力していきたい。

(以上)